

令和4年度 二戸市総合計画推進委員会 議事録

開催日時：令和5年3月28日（火）午後1時30分～3時30分
会場：市役所1階会議室

【出席委員（敬称略）】

吉野 英岐、戸舘 弘幸、川上 隆、中田 勇司、生内 雄二、馬淵 貴尋、一本木 哲男、大建 ももこ、小軽米 健太、高田 将洋、薄井 大輔、工藤 美緒

【説明のため出席した職員】

藤原市長、大沢副市長、鳩岡教育長、
（令和5年度体制）泉山茂利樹総合政策部長、千葉守総務部長、泉山武将産業振興部長、古山淳夫建設整備部長、姉帯敏美浄法寺総合支所長、立花幸博教育部長、生内雅史健康福祉部部長、
（令和4年度体制）石村一洋総務部長、小野昭徳浄法寺総合支所長
（事務局）古舘晶政策推進課長、佐々木貴幸政策推進課副主幹

～～～ 開会 午後1時30分 ～～～

政策推進課長（進行） 本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。ただいまより、令和4年度二戸市総合計画推進委員会を開催いたします。

はじめに、本日ご出席の委員の皆様を、ご紹介いたします。

（出席委員の紹介）

また、本日、高橋美佐子委員、國分一彦委員、下舘光弘委員、小保内威彦委員、上野美菜子委員からは、欠席の連絡をいただいております。

次に、市の出席者を紹介します。

（市側出席者の紹介）

次第の2、あいさつに移らせていただきます。藤原淳二戸市長よりごあいさつ申し上げます。

藤原市長 年度末の大変お忙しい中、出席いただきまして誠にありがとうございました。また、皆様方には、日頃より各方面におきまして市政発展のためご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

まず、今日の新聞等でも報道されましたが、残業手当の不正受給等にかかる職員の不幸事が発覚し、お詫び申し上げるとともに、市民の信頼回復に努めてまいります。

本日の二戸市総合計画推進委員会につきましては、策定時から本日ご出席の多くの方々に関わっていただきました。その後、コロナ等により、本会を2年間開催できずにおりました。本会の目的は、計画通りに進んでいるか、また、こうすればもっと良くなるのではないか、というご意見を伺いながら、この計画が市民のみなさんにとって、「しごとをつくる」、「子育てを支える」、「暮らしを守る」、「まちをつなぐ」ということに繋がっているか、という計画のチェック機能でもあると考えております。

後期計画では4つの視点を設けさせていただき、新型コロナウイルスをどのように次のステップにつなげていくか、持続可能な開発目標、情報社会への対応、持続可能な行財政運営の4つを掲げながら進めてまいりました。おかげさまで、金田一のカダルテラス金田一が昨年3月にオープンし、ひとつの目玉ができました。九戸城については、今年は本丸のオープン、二ノ丸で花見ができるようになり、見える形となってきました。区画整理事業は、東側での整備が進み、駅前

広場が整備されます。残るは浄法寺の天台寺と漆の振興となります。天台寺は 360 年振りの大修理を終えました。漆の生産は、国から 2 t を求められておりますが、現在は天候にも左右され、1.5 t となっています。体制強化のため、令和 5 年度は係を一つ増やし、漆生産 2 t の確保と、天台寺と漆の観光充実を図るために進めてまいります。

本日は皆様から意見を賜りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

政策推進課
長

続きまして、次第の 3、委員長及び副委員長の選出に移ります。

二戸市総合計画推進委員会設置要綱、第 5 条第 1 項の規定により、委員の互選となっております。なお、選出方法につきましては、事務局案によりご協議いただくという形で進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

(委員より異議なしの声)

ありがとうございます。事務局案といたしましては、委員長は、生内 雄二 様、副委員長は、本日ご欠席ではありますが、下館 光弘 様に、お願いしたいと考えてございます。皆様、いかがでしょうか。

(委員より異議なしの声)

それでは委員長は、生内 雄二 様、副委員長は、下館 光弘 様に、お願いいたします。生内 委員におかれましては、委員長席にご移動願います。

(生内委員が委員長席に移動)

それでは、生内委員長より、ごあいさつをいただきたいと存じます。生内委員長、よろしくお願いいたします。

生内委員長

この会に前回出席した際は、久慈会長が委員長でした。その流れを受け継ぐこととなりました。商工会としましても、様々なことで行政と関係しながら、二戸の発展のために努力していきたいと思っております。後期基本計画の中間年となる中で、皆様から忌憚のない意見をいただき、この計画を少しずつでもいい形にもっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

政策推進課
長

続きまして、次第の 4、議事に入る前に、資料の確認をいたします。資料 1～6 がお手元にあるかご確認ください。

それでは、二戸市総合計画推進委員会設置要綱、第 6 条の 2 の規定により、委員長が議長を務めることになっておりますので、議事進行を生内委員長にお願いいたします。

生内委員長

それでは、暫時進めさせていただきます。

議事の「(1)、二戸市総合計画の進捗状況等について。」の、「ア 総合計画の体系について」事務局より、説明願います。

政策推進課
長

(資料 1 により説明)

生内委員長

説明が終わりました。ご意見、ご質問はございますか。

(委員意見なし)

それでは、次に移ります。「イ 財政状況について」事務局より、説明願います。

- 千葉部長 (資料4により説明)
- 生内委員長 説明が終わりました。ご質問やご意見はございませんか。
- 戸舘委員 市税について、予算比較で固定資産税が伸びているようですが、近年の傾向はどうでしょうか。また、その要因は何でしょうか。
- 千葉総務部長 新築家屋の増加を見込んでいます。近年での実績も伸びております。
- 薄井委員 財源が足りなくなる分は、市県民税の増により補うことになるものですか。
- 千葉総務部長 市県民税等については計算方法が決まっており、急に税率をあげることはありません。歳入に見合った歳出を組み、バランスを考えながら、何に重点を持って予算を投入していくか、そういった考え方で歳出を抑制していくことが大切です。それは人口規模に応じた職員数も同じであり、規模に見合った数での市民サービスにつなげる予算編成も必要です。
- 生内委員長 ほかにはございませんか。よろしければ、次に移ります。「ウ 市総合計画後期基本計画の事業評価及び令和5年度の重点事業について」事務局より、説明願います。
- 各部長 (各部長により、所管の内容について、資料2・3に基づき説明)
- 市長 私の方からもひとつ。県の支援学校について、16年もの課題となっておりましたが、工業高校の敷地に建設する予算がR5につきまして、R7頃まで完成に向けて進んでいきます。工業高校と一戸高校の統合は2学科を確保しながら、それぞれ校舎制によって維持していくということで、学校名は変わるものの、落ち着くところに落ち着いたと感じています。野球などの部活も一緒にやろうという動きもあり、大変励みにしながら頑張っているそうです。みなさんのおかげと感謝いたします。ありがとうございました。今後も駅周辺を起点にしながら、様々な支援を要する方々とともに学びを深めていきたいと思っております。また、一戸高校では介護など様々な分野での人材育成する必要な場であると認識しており、継続していくことはありがたいと感じています。
- 中田委員 高校についてですが、去年の福岡高校の入学者が100人を切り、98人となりました。今年の入学者が120人を切ると1クラス減ることになると聞いていました。福岡高校同窓会役員なのですが、福岡高校がここまで落ち込んでいるとは思ってもみませんでした。地元の福岡中学校からの入学者が減って、盛岡方面の高校に行く傾向が強くなっており、ほかの中学校では変わっていないとのこと。中学からこの土地を離れて盛岡の学校に行くということは、地域が廃れていくものと感じます。中学校は、それぞれの考え方があるのではないですか、という雰囲気のようなのですし、親も同じ雰囲気のようなのです。そこで、福岡高校のイメージを変えるため、同窓会のお金でチラシを作り、中学校や全戸に配布しました。その結果、今年125人が入学することとなりました。市役所を含め、私たちがぼうっとしていると、地域が廃れていってしまいますので、計画においては、スピリッツを入れて進めてほしいです。福岡高校でも頑張っており、進学希望者の47%が国公立に入学したとのこと。学業も頑張っており、盛岡地区にも負けない成績を残しています。足もとからしっかりと誇らしい地域とするため、高校からもそういった活動をしていく必要があります。
- 市長 盛岡周辺地域の高校に集中することは聞いてございます。県教育委員会もそれらを悩んでいるようです。生徒が減っていく中で、どこを核としていくかについて、今は表には出てきませんが、次の県計画では入ってくるものと思っております。また、2年ほど前から福岡高校の建替えをお願いしており、悪い感触ではないと受け取っています。福岡高校周辺道路も融雪装置等の改修を行っており、県道からの道路も改修することを考えています。校舎の建替えも、できれば仮校舎ではな

く建設したいとの県の意向もあります。いずれ、福岡中学校でトイレが完備された状況から福岡高校に入学しますと、落差を感じる生徒もいると思いますので、県に強く要望しているところです。工業高校、支援学校ときまして、次はいよいよ福岡高校、県北の雄を守っていく必要がありますので入学者が120人を超えて良かったと感じています。

千葉総務部長

細かい部分ですが、事業の説明を加えさせていただきます。これまで、工業高校のパンフレット作成に補助金をお渡ししておりましたが、今年度は福岡高校分も予算を確保いたしました。同窓会のみなさん、校長先生のご努力により、入学者が120人を超えたことで私どもの安堵したところです。福岡小学校、福岡中学校の建替えに続き、次は福岡高校とっておりますので、みなさんのお力添えに感謝しております。また、現在の福岡中学校長は福岡小学校、福岡中学校、福岡高校の卒業生ということもあり、学校内においても学校の良さを伝えてもらっており、そのような効果が徐々に表れることを期待しているところです。

川上委員

久し振りに二戸駅の東口に降り、景色が変わったと感じました。交通の便や道路事情もよくなり、暮らしがよくなると思います。逆に言えば、見晴らしがよくなった分、がらんとした感じもします。区画整理はそういうもので、効率的なまちづくりのための整備だと思えますが、これから東口に人が回遊するような、賑やかな駅前がつくれればよいと考えています。また、枋ノ木神社をはじめ、お花見など、駅前の若者が取り組んでいると伺っていますので、賑わいをもう一度、興してくれるよう頑張ってもらいたいと思っていますし、総合計画でもしっかりサポートして欲しいと思います。もう一点、以前から金田一温泉や九戸城、天台寺の公民連携3地区を見させていただいております。だいぶ、当初の予定に近い形でできてきて、みなさんの努力の結果だと思えます。後期基本計画の中間年は、10年での仕上げの3年となる区切りの年でもあります。二戸の地域の魅力が高まっていると思いますし、そういうまちづくりに一生懸命取り組んでいると思いますが、人が来てくれるように、また、漆やりんご、米などのブランド化、その生製品の販売も県内外に強くアピールする、あるいは、旅行関係で、IGRなども取り組んでいます。独自で二戸や県北エリアを楽しめるような開発を進め、マーケットに商品として提示して価値が高める取り組み、そういった作業を最後の2年間で行っていくべきだと思います。マーケットに営業活動を行う組織として強化が必要であると考えており、アクションプランで観光協会の業務再編などの記載もございます。観光協会にご承知のとおり、市の魅力をセールスし、まちづくりにも貢献できる組織ですので、具体的にどういったことができる組織にしようとしているのか考えを伺いたいです。

泉山産業振興部長

観光協会については、これまで旧浄法寺、金田一、二戸とそれぞれございますが、成り立ちに違いがありまして、特にも旧浄法寺はイベントのみを行っている状況です。これらを一本化して、他市のように観光で生活していく、観光客を呼び込む基盤となるべき協会を目指しております。現在は法人化もしていませんので、独自でモノを提供し販売することは行っていません。他市の観光協会のように収益を上げることも目指していきたいと考えてございます。

薄井委員

二戸駅前町内会ではイベント、桜まつりなどを行っています。実施にあたっては、市の補助金を活用しており、みんなの熱量が地域に賑わいをもたらしていると感じています。今後も支援をよろしくお願いします。

戸舘委員

総合計画の体系の中で、人口減少に立ち向かう2つの視点として、歯止めをかけることは一自治体では非常に難しく、国でしっかりやってもらう必要がありますが、対応することは地域でやれることがあると思います。3点お話ししたいのですが、産業分野において、生産性の向上の話がでますが、生産工程、生産効率の向上に走りがちです。それではパイが膨らまず、豊かになりません。川上委員の話にもありましたが、付加価値の向上に力を入れるべきだと思います。そのためには、マーケットをしっかり見る、またはマーケットをつくる、あるいは、海外にマーケットを広げ、製品を高く売ろうと考える必要があります。後期基本計画の中で、農畜産物にはそういった記述がありますが、各種の事業や産業界へ働きかけてほしいと思います。2つ目は、地

域内経済の循環についてですが、せっかく地元モノがあるのにほかのものを買うと外にお金が出ていってしまいます。エネルギーも然り。市財政運営について、先ほど固定資産税について伺いましたが、人口減少が進む中、固定資産税は安定的な財源であり、伸びていくことが必要です。近年、伸びているとのことで、区画整理事業の関係もあるのでしょうかから、いいことだと思います。駅前に事業の誘導ができて、賑わいも生まれ、しっかりと固定資産税収が生まれるよう取り組んでいければいいと思います。土地の価値を上げる意味では、公共交通も大事ですので、整備をお願いします。

小軽米委員

後期基本計画の審議委員から携わり、当初から課題の解決にはデジタル化が大事であると伝えてきました。携わったことにより、市の動きがよく見えた3年で、頑張っていた感じと覚えています。中でも、人口減少に立ち向かう2つの視点が気になります。歯止めをかけることは絶対無理だと思いますし、全国的に人口減少が進む中で緩やかにするには、よそからひっぱり出すことしかありません。後期基本計画に掲げる4本の柱はよいのですが、アクションプランにいくと、少し変わってくる気がします。といいますのは、アクションプランが全体的に取り組んでいることに準じて進んでいるのではないかと感じます。よその地域でもあるであろう内容です。後期基本計画の審議会において、中田さんはとんがったことをやるべきだ、大建さんは病院でとても待つ、といった話もありました。よそから注目される、よそから来て暮らしたくなるアクションを起こしているかという疑問があります。理想的な話かもしれないですが、いい意味で変なまちをつくっていかないと、人口減少に影響するまちはつくれません。3年前当時に、VRを各家庭に配ったら全国的に注目される旨の話をしたことがあり、今はメタバースに変わっていますが、いろいろなところで世界の会議がメタバースを通じて行われています。また、30年後を見据えるのであれば、中心に人を集めるのではなく、中心からドローンで物資を運ぶ考え方を持った方がいいのではないかと話しました。現在は国内でもモノを運ぶドローンが増えてきています。公共交通も電動、自動運転バスになる話もしました。北海道では全天候型の自動運転バスの実験もされています。3年前にお話ししたことが、全国的に始まっています。何が言いたいのかといいますと、先進的なことをして、二戸市が目立つことをしないと、人口減少に影響するくらいのことできないと思います。市が行っていることは素晴らしいことですが、目的として、人口減少に立ち向かっていくのであれば、もっともっとチャレンジすることが大事だと思います。もちろん、税金を使うことですので難しいところもあると思いますが、例えば、漆に税金を使うが、漆器もとても売れる、といった市も儲ける作戦を考えてもいいのではないのでしょうか。農業についても、北海道の十勝ではオシャレで先進的なことをしていると話を聞いたことがあります。ひとつひとつの課題に対応したうえで、もっと飛びぬけたアクションを起こしていかないと、衰退していくと思います。行政と民間どちらがやるべきかわかりませんが、民間としていろいろな団体で発信していこうと思いますので、市でも一生懸命お金を儲けて、新しいことにチャレンジしてほしいと思います。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。682のアクションプランがどこを目指し、どう結びついていくかについて足りない部分がございます。いろいろな動きがある中で、アクションプランを変えていかなければ時代にあった形になっていきません。そういった意識を持って進めれば、ほかに負けないとがった部分が出てきて、効果が表れるものと考えております。また、10年前は人口減少への歯止めという言葉が使われていましたが、4・5年前にはスピードを緩めることに変わってきました。そこで、総合計画の基本は変えておりませんが、後期基本計画においては4つの視点を加えたものでございます。意識して取り組んでいきたいと思っております。

小軽米委員

ドローンでモノは運べますが、法律的には人は運べないことになっているそうです。特区がとればクリアできるかもしれません。どぶろく特区をとった経緯もあると思いますので、特区ととることに特化した人材がいればいいと思います。ドローンタクシーはアメリカとドバイで導入されており、都会にはエアガードレールなどもできてきています。ドローンは実用化が目の前だと感じています。3Dプリンタ建築も課題があり、建築基準法では9㎡以上建てられないが、それも今後追いついてくるのではないかと考えています。新しいこととお話ししていますが、古い

歴史にもプライドを持って、それぞれ生かしていきたいと思います。また、今の小学生は、会話しながらオンラインでゲームを当たり前にやっています。この子たちが社会に出てきたときに会社としてどうしていくべきかを考えています。これはまち全体にもいえることだと思いますので、それくらいの思考で進めていければと思っています。

生内委員長 若い意見を生かしていかなければいけないと思いますので、よろしくお願いたします。それでは、次に移ります。「エ 公民連携推進事業について」事務局より、説明願います。

泉山総合政策部長 (資料5により説明)

生内委員長 説明が終わりました。ご質問やご意見はございませんか。なければ、それでは、次に移ります。「オ 新型コロナウイルス感染症対応について」事務局より、説明願います。

泉山総合政策部長 (資料6により説明)

吉野委員 計画を拝見して、最初に漆が出てくるのが二戸の特性だと感じました。1.5tの生産があるとのことですが、取引は54,000円/kgですと約8,600万円であり、事業費と同等くらいですが、トップに持ってきているということは、単なる生産額だけではなく、市の特性、特長、誇りが感じられますので、生産の振興はもちろん重要ですが、市民に広く認知していただくなど、活用の仕方があると思います。例として、久慈市のまめぶ汁は、もともとは山形村の食べものですが、今は市民も久慈といえば、まめぶ汁という風になっています。もともとは浄法寺なのでしょうが、二戸といえば漆だな、とピンとくるように3年かけて取り組んでほしいと思います。また、福岡高校の話題がありました。県立大学総合政策学部は7割が県内出身者ですが、福岡という地名を知らない学生がほとんどです。高校名は旧町村名を残しているところもあり、黒沢尻や沼宮内、岩谷堂などありますが、病院名などは使われておりません。こういったことから、地名も、天台寺と浄法寺をお寺と捉えたり、二戸なのに九戸城なのか、という認識ではないかと思います。全体を二戸ブランドとして市外へプロモーションしてほしいと思います。シティセールス、ふるさと納税も進め、二戸のことを多くの方に分かっていただける工夫をしてほしいと思います。

大建委員 1点ございます。観光業でみていくと、大変な世の中ですが、チャンスがあると実感しています。観光から二戸をよくすることができる力がまだまだあるな、と感じています。二戸のことをあまり知らない方が観光に来ますが、観光で二戸駅を利用して、二戸駅を利用すると浄法寺や九戸城のことが見える中で、金田一温泉にいらっしやるので、そこに外貨を稼ぐ力が眠っていると思います。ポイントポイントで分けて考えていくと、それぞれの地区だと小さいですが、全体を見せる体制が必要ではないでしょうか。また、漆に関することや歴史、伝統、昔話などをお客さんにお話することで、よその人が住みたくなる、また来たくなる観光地づくりとなるのではないのでしょうか。よその人から「いいまちだね」と言われるよう、力を入れて民間も頑張っていきたいと思います。

工藤委員 農業について、りんごを作っています。二戸ブランドを県外に「はるか」を販売しています。しかし、「はるか」ブランドを伝えると、蔵王や山形の名前がでできます。二戸の知名度は低いと感じます。「二戸はるか」など名前を使っていきたいと思っています。

生内委員長 ありがとうございます。それでは、またの機会もあるかと思いますが、今回はこれで議事を終了させていただきます。

政策推進課 生内委員長、大変ありがとうございました。

長 それでは、これをもちまして、二戸市総合計画推進委員会を終了とさせていただきます。
本日は、ありがとうございました。

～～～ 閉会 午後3時20分 ～～～